



く ん せ ん

薫 泉

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

コミュニティスクール化します

校長 井上 光広

予想通りの猛暑続きの夏休みが終わり、二学期が始まります。皆様はどのような夏をお過ごしでしたでしょうか。

さて、本校は八月に教育委員会に申請を出し、九月より「コミュニティスクール」として新しい一歩を踏み出します。そこでコミュニティスクールとは何なのかということをお伝えする必要がありますので、まずは一般論として文部科学省から出ている資料から引用します。

◎コミュニティスクールは学校運営協議会を設置した学校（法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のこと）

◎学校運営協議会の三つの役割

①校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること

②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる

③教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

詳しい報告は本校サイト内にコミュニティスクールのページ用意し、発足に至る経緯も含めて報告書を公開しておりますので、関心のある方はご覧ください。

次に具体的イメージをお伝えします。そもそも

本校は「地域と共に」という合い言葉があるように、これまでの存在自体が地域立学校といってもよいほど地域の皆さんに支えられています。わざわざコミュニティスクールにしくなくても、現在の活動自体が全国のコミュニティスクールの模範とも言える状況にあるのです。例えば、やぐち応援隊による授業支援や図書・グリーンボランティア活動、サマーワークショップの開催。また、スマイルネットによる日常的な見守り活動、町会や青少年対による各種イベント開催、商店街の協力を得た教科「おおたの未来づくり」地域創生学習活動など、他校や教育委員会からも注目される、飛びぬけた地域連携をしています。こうした活動をこれからも長い間、持続していくことが大切です。そのためにもコミュニティスクール化して、校長や教職員が異動して学校運営方針が変わったとしても、地域連携文化を地域代表（学校運営協議会）に残していく必要があると思います。

また、本校の大きな課題として、周年問題があります。現在の開校年は明治二十四年（一八九一年）ですが、学校だよりの題名の元でもある「薫泉学校」創立の明治十一年（一八七八年）を創立年として、令和八年度に開校一三五周年・創立一四八周年を宣言し、令和十年度に創立一五〇周年を記念する各種行事を行う方針で学校運営協議会がすでに動いています。

今後本校サイト上に、学校運営協議会の議事録や資料を公開していくことになりますので、ご確認いただければ幸いです。

二学期の合い言葉は「アウトプットの達人」です

一学期の「アウトプットの名人」から一歩進化して、達人を目指しましょう。達人とは技や学問の奥義に達している人のことです。小学生としては、アウトプットする方法をできるだけたくさん身に付けていることを目指すのがよいでしょう。言葉で文字で表情で身振りで行動で、どんなアウトプットしていけるよう意識させたいです。

九月の生活目標

生活指導部

長い夏休みが終わりました。有意義に時間を使い充実した日々を送れたでしょうか。いよいよ二学期の始まりです。残暑という言葉があるように九月に入っても、夏のような暑さが続きます。油断をせずに熱中症対策のためのこまめな水分補給や汗ふきなどを続けてください。

学校生活が始まり、家庭中心の生活から環境が変わったことで、気持ちがなんとなく落ち着かない人もいるのではないのでしょうか。落ち着いた生活をするために、いつもと変わらない規則正しい生活を行うことが大切です。また、ゲームやYouTube は気分転換になりますが、やり過ぎたり見過ぎたりすると、目や脳が疲れてしまい、さらに気持ちがいらいらすることもあります。時間を決めて行うことも大切です。「早寝早起き朝ごはん」を基本に、健やかな体と元気な心で落ち着いて学校生活を過ごせるようにしていきましょう。

◎学校では、「トイレの改修工事」が始まっており、中央階段近くのトイレと手洗い場が新しくなります。完成は三月頃となりますので、少し不便になりますが、工夫して学校生活を送ります。

俳句指導について

研究推進部俳句教育担当

昨年度は俳句学習のまとめとして、「第七回おた俳句大会」に応募し、二十七句もの俳句が佳作以上の賞をいただきました。

俳句は日本の伝統的な言語文化であるだけでなく、発見する力、豊かな心を培うための絶好の学習材です。「俳句」と聞くと難しいようにも感じますが、五七五と短いためどの子にも取り組みやすく、一度にたくさん作品に触れることができます。また、句会を行うことで、友達の間で俳句のよさを見付けたり、自分の俳句のよさを友達に見付けてもらったりすることで、表現する楽しさを感じてほしいと思います。継続的な俳句づくりを通して、季語をはじめとして語彙を増やし、言語感覚を養い、自分の思いをのびのびと表現する力を伸ばしていきます。